

令和4年3月11日

保護者の皆様

福井市日之出小学校
校長 田中 範継

教育アンケート結果について

「教育アンケート」へのご協力ありがとうございました。本年度は、項目を精選、焦点化した上で、これまでのマークシート方式から 구글フォームでの入力方式に変更し、3年生以上の全児童、全ての学年の保護者の皆様にご協力をいただきました。その結果と考察の概要を報告させていただきます。今年度も、このアンケートは成和中学校区4校で共有（一部は福井市全体で共有）し協働して学校教育を進めています。

このアンケート結果を生かし、保護者の皆様のご協力を賜りながら、より一層充実した日之出小学校を創造していきたいと考えていますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

なお、この結果は学校のホームページにも掲載します。

このアンケートは、各質問について「①あてはまる ②ややあてはまる
③あまりあてはまらない ④あてはまらない」を選択する方法で行いました。



1 全体を通して…

コロナ禍の影響がアンケート結果にはっきりと表れ、全体的にやや低い評価となっています。感染予防対策のため、評価しにくい項目や満足が得られにくい内容もあって、厳しい数字となって表れています。しかし、この結果を真摯に受け入れ、コロナ禍の時代における子供たち自身の自己評価を高めるための取組を充実させたり、保護者や教職員が、いかに子供たちの学習や生活の支援に当たるのかを考えたりする必要があります。

2 児童アンケートより（3年生以上の全児童がタブレットを使って入力回答）

22項目中20項目で80%以上を達成しています。

- (1) 「**学校に通うのが楽しい**」の項目では、90.9%の児童が楽しいと回答し、昨年の89.8%を上回っています。しかし、内訳をみると、昨年に比べ、「あてはまる」から「ややあてはまる」へ10%程度が移動しているため、様々な活動が制限される中で、満足を得られないと感じる児童が増えたと推測されます。特に、学校で欠かすことのできない児童間の密接な交流が制限される現状は、学校において危機的な状況であり、コロナ禍の中でも子供たちとともに楽しく通うことのできる学校づくりが喫緊の課題です。
- (2) 今年度は昨年度以上に発声やグループ活動を控える期間が長かったせいもあり、「**話し合う**」ができたとする児童は86.3%、「**説明する**」は78%に留まっており、今後も「with コロナ」の時期が続くことも予想されることから、これからの授業は、発声によるリスクを抑えた説明や密接・密集を伴わないグループ活動を模索する必要があります。
- (3) このような中でも、児童は「**めあてや課題に一生懸命に取り組む**」（95.1%）姿が見られ、限られた環境でも精一杯授業に臨んでいる様子がうかがえます。さらに、「**まなざしで聞く**」（91.3%）姿は、普段の様子からも見ることができるようになってきました。廊下から授業を観察していると、どの学級でも教室の中での先生の話が児童の心にスーッと入っているような感覚を覚えることがあります。日頃感じている、児童の集中した授業に臨む姿が、この数字の上にも表れているようです。児童はwithコロナの状況の中で、どのような態度で授業に参加していく事が大切なのかを学んでいるのではないのでしょうか。
- (4) コロナ禍の中のアンケートの実施で、今回特に強調したいのが、「**思いやり・協力**」の項目です。昨年度の93.8%が今年度は95.1%に向上しました。わずかではありますが、この結果は、全世界がコロナという目に見えない敵と戦っている中で、児童は怯え逃げているだけでなく、友達と協力しながら、何をすべきか何ができるのかを探り、工夫し挑戦することをあきらめていないと思われたいです。その姿勢の中には、友を思いやるあたたかな心がこめられていて、コロ



ナですさんだ大人の心さえも優しく癒してくれるような力を含んでいるのだと感じます。

また、「みんなと何かするのは楽しい」と感じる児童も増えており、コロナ禍の臨時休業や学級閉鎖、出席停止だからこそ、みんなに会えるだけでも幸せと感じ、友達といっしょに活動する楽しさをより一層感じ取っているのでしょう。



- (5) 家庭では「宿題」をしっかりしている反面、「宿題以外の予習復習」の評価が低い結果は、日之出小学校だけでなく成和校区4校で共通しており、福井県の教育の課題でもあります。主体的に考え取り組む子供の育成が必要です。このような課題の中で、本校の5年生の72.3%は学校全体の平均53%に比べ大きく上回っていて、注目すべき点です。予習復習のように主体的に物事に取り組む力をもっている5年生のこれからの活躍がとても楽しみです。

3 保護者アンケート

- (1) 特記すべきことは、「栄養バランスよい朝食を毎朝食べるようにしている」の項目で、69.4%の家庭で実践されている(あてはまる+ややあてはまる)ということです。この項目は、例年60%前半までしか伸びませんが、今年度は今まで以上の高い評価が出ています。おそらく、コロナ禍で家庭の中でも免疫を高めるために「バランスよい食事、適度な運動、休養と睡眠」に心がけていらっしゃるのですが、この数字につながったものと思われる。コロナ禍におけるプラス面の1つですね。予防対策にしっかりと取り組んでくださってありがとうございます。



早寝早起きと**朝食をしっかり取る**ことは小学校の成長期の児童には欠かすことができません。全国学力・学習状況の調査では、朝食をしっかり摂る児童は学力も高いという結果が出ています。また、日之出小学校でも、朝から落ち着きがない、学習に集中できない、友達とトラブルを起こしやすいという児童の多くが、朝食を抜いたりしっかりととっていないかたりするという事実があります。児童の健やかな成長のためには、学校だけでなくご家庭や地域の協力が欠かせません。PTA活動の一環として意識して取り組んでまいりましょう。

- (2) 「学校」について、昨年度と比べ「子供たち一人一人を大切にし、温かく指導している」は97.2%から91.2%に、「気軽に相談できる」は89.9%から86.4%に減少しています。学校はこのことを重く受け止めています。今年度の対応についてしっかりと振り返り、来年度も全教職員が児童一人一人を大切にしたい教育を行い、保護者の皆様との連絡・相談を大切にしながら指導に当たっていかねばならないと考えています。
- (3) 「我が子は、学校や地区のことに誇りをもち好きである」は、新たな項目です。福井市学校教育目標は「郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成」であり、この項目はこの目標につながっていて、福井市や日之出地区に誇りをもち大好きだという児童を育てていくことをめざしています。

4 教職員アンケート

- (1) 教職員アンケートの結果は、「①あてはまる」「②ややあてはまる」の合計は15項目全てが85%以上、13項目が95%以上、6項目で100%となっており、昨年度とほぼ変わりません。しかし、その内訳をみると、授業の工夫等に①の割合が増えていて、コロナ対策により様々な教育活動が制限される中でも、児童の興味関心をひき、意欲を高める工夫を全単元で重ねていることが分かりました。
- (2) コロナ禍において、「いじめのない人間関係づくり」には100%の教員が努力してきました。特にコロナによる差別や誹謗中傷が生まれないように意識した指導を進めてきました。これからも、教室の中には児童本人だけでなく、家族が感染したり濃厚接触者になったりする児童も存在することから、全ての児童が自分事として対応することができるような心の指導を続けていきます。

